

平成26年 教育委員会第1回定例会・秘密会 会議録

日 時 平成26年1月28日（火）

午後4時41分～午後5時03分

場 所 教育委員会室

議事日程

第 2 報告

【子ども総務課】

(2) 平成26年度子ども・教育部予算編成方針の一部変更

出席委員（5名）

教育委員長	近藤 明義
教育委員長職務代理者	古川 紀子
教育委員	市川 正
教育委員	中川 典子
教育長	島崎 友四郎

出席職員（9名）

子ども・教育部長	大畠 康平
次世代育成担当部長	高橋 誠一郎
参事（子ども健康担当）	田中 敦子
子ども総務課長	村木 久人
副参事（特命担当）	大井 良彦
子ども施設課長	辰島 健
児童・家庭支援センター所長	山下 律子
学務課長	依田 昭夫
指導課長	佐藤 興二

欠席委員（0名）

欠席職員（1名）

子ども支援課長	亀割 岳彦
---------	-------

書記（2名）

総務係長	久保 俊一
総務係員	田口 有美子

近藤委員長 | それでは、平成26年教育委員会第1回定例会秘密会を開会いたします。

◎日程第2 報告

子ども総務課

(2) 平成26年度子ども・教育部予算編成方針の一部変更

近藤委員長
子ども総務課長

子ども総務課長より報告願います。

それでは、子ども総務課の報告事項、(2)平成26年度子ども・教育部予算編成方針の一部変更についてでございます。

本日、A3判の縦長の資料、こちらを1枚ご用意しておりますので、こちらに従ってご説明させていただきます。

こちらにつきましては、昨年9月10日の第15回本教育委員会定例会におきまして、子ども・教育部の予算編成方針についてご説明いたしました。その後、予算の編成の過程等におきまして、さまざまな要望、あるいは他の部との調整、そういった中で編成方針に若干変更が生じたので、そちらについて本日ご報告させていただくものでございます。

修正された部分につきましては、網かけになっている部分、こちらが修正部分でございます。ほとんどの部分が文言の整理というところになっております。これは、他の部と比較いたしまして、子ども・教育部のほうが、1つの文章が、それぞれの文章が長いということで、こういった形で整理させていただきました。

裏面をめくっていただきたいんですが、特に1つ加えたのが、上から2番目のところがございます、修正後のところになりますが、「家庭における子育てを支援するため、児童館等において一時預かり保育を行います。また、幼稚園・小学校の保護者が保護者会等により参加しやすくするため、いっとき保育を実施します」。こちらを方針の中に加えさせていただきました。こちらにつきましては、予算編成過程におきまして一時預かり保育等についての議論がございまして、そちらを載せる際に、方針の中に目標となります文言がなかったものですから、こちらを加えさせていただくことにさせていただきました。

それから、その少し下のほう、子育てに関する相談体制の充実と親育ちの支援というところがございますが、こちら網かけ部分「家庭での育児を支援し、親の子育て」、「教育」のところに訂正線を引いてございます。申しわけございません、こちら「親の子育て力を向上させるため」と訂正いたしました。それから、子ども在宅サービスの充実を図るところを加えたところがございます。こちらについては、子育てに関する相談体制の充実ということでございますが、「育児の支援」、こちらについてが文言が抜けておりましたので、加えさせていただいたところでございます。

訂正につきましては以上です。

今年度の予算につきましては、こちらの方針に従いまして、予算案を作成いたしまして、予算案につきましては、後ほど区長部局から教育委員会に意見照会という形で来ることとなります。

近藤委員長 ご説明につきましては以上です。
ありがとうございます。
いかがでしょうか。ご意見、ご質問等ございますか。
どうぞ。

古川委員 表で、文が長いということになるべく短く簡潔な表現にしていたとのことでしたが、個性を伸ばし、生きる力を育む教育の推進、一番上のところなんです。が、「社会体験」という言葉がとれて、修正後のほうは「自然体験等」になっているんですけれども、それに対応する事業として、「社会体験・インターンシップ」が入っているので、「自然体験」と、また「社会体験」というのは別の併記にしたほうがいいのではないかなとちょっと思ったんですが、これは何か。

指導課長 先ほど子ども総務課長からご説明申し上げましたとおり、文章が長いことによって、読んでいる方が、意味を十分受けとめられないのではないかとというご指摘がありまして、事務局で文言を精査していったところ。「社会体験」だけが抜けて、削除してしまったので、そんなに短くなったという感じはないんですけれども、ただ、そういった観点で今回整理をさせていただいて、当然、自然体験、ここでは事業や専門家によるプログラム……

古川委員 そちらに入りますか。
指導課長 「自然体験等」ということで、例示をしている文言を整理したものです。なので、当然「社会体験・インターンシップ」という事業があるので、そちらの言葉を目出しするというのも重要だとは認識はしていたんですけれども、今回はこういった形で、「等」に含ませていただいたというものでございます。
もしどうしても「社会体験」というのが必要だということであれば、文言として残す分はよろしいかとは思いますが。

古川委員 どうでしょう。
指導課長 では、ご意見いただきましたので、残します。
古川委員 はい。
近藤委員長 ほかにいかがでしょうか。
どうぞ。

市川委員 さっき英語のところでも申し上げればよかったのかもしれないんですけれども、この編成方針、網かけに、随分いろいろな部分になっているんですけれども、だからというわけじゃないんですが、やはり千代田区の子どもたちの学力というのは落ち目だろうと僕は見ているんですよ。それはいろんな理由があるのかもしれませんが、例えば中等学校で英文をつくったとか。ただ、やっぱりこれだけ教育の問題で網かけの部分が出てくるということは、教育の問題に、教育委員会ももちろんなんですけれども、学校も力を入れないと、一遍落ち始めると、学力の問題というのは子どもたちの問題ですから、なかなかもとに戻せないです。
昔々の話をして申しわけないんですけれども、ある文部大臣から、現役の

ころ聞かれたことがあるんですね。何を聞かれたかという、一体いつになったら昔の都立高校のような、ああいう学力で競い合うような学校というのが東京都内にできてくるんだと。芽が出始めていることはわかるけれども、いつになったらというような話があったんですけども、そのとき、私は、別段深い考えがあったから言ったわけじゃないんですけども、当時、25年ぐらいたっていましたかね、学区制というのを始めてから。その25年かかってこんなふうになってしまったものを、では、25年かけたからもとに戻るかといったら、絶対に戻りませんと。これは倍の年月がかかりますよと。そんなことを言って、君は責任者だろうということを言われた覚えがあるんですけどもね。

やっぱり教育の問題というのは、非常に、そういう意味で、速成のきかないもの、お金をつき込んだから何かができると、あるいはいいマニュアルができたから、そのマニュアルに従ってやればいい教育ができるんだと思っていたら大間違いであって、やっぱりもとは学校の先生がいかにか情熱を持って子どもたちと接するかということなんだろうというふうに、今にして思えばそういうことなんです。

そういう意味からすると、やっぱりいろんなことがあるんでしょうけれども、当区の教育、特に学力の問題については心配ではないんですよ。もうちょっと教育の問題に力を入れるような、何かいい知恵というのはないのかということをお願いしたいと思ひまして、発言をしました。

当然こういういい知恵がありますよということはないはずであって、いい知恵があるとすれば、いいマニュアルができましたというようなことだろうと思うんですけど、私は、自分が教壇に立ったこともないんですが、マニュアルで教育なんかできるはずがないんですね。マニュアルでいじめ防止なんかできるはずがないですよ。やっぱり先生なり、保護者なりが、どのぐらい本気になるかということだろうと思うんで、そういう点では、これを見ているんじゃないのかとも思えるんですけど、それは半ば冗談としても、やはり昔の千代田区の子どもたちの学力から見れば、かなり落ち目だろうなという気はします。英語の問題をとってもそうなんですね。学校の先生がこんな状態で英語を教えるなんていうのは、みんな、できるのかと僕なんか思うんですけどね。思ったことを言わせてもらいましたけれども、もうちょっと真剣に学力の問題に取り組まないとえらいことになるんじゃないかなと思いますけどね。

以上です。

近藤委員長

ほかにはいかがでしょうか。

(なし)

近藤委員長

最後というか、大変細かいことでごめんなさい、1点だけ。個性を伸ばし、生きる力を育む教育の推進の一番最後の項目のところ、「国際的視野を広め」云々というのがありますけれど、ここに「国際理解教育」という書き

方がありますよね。一番右側のところは、「国際教育の推進」ということで書いてあって、さっき教育目標の基本方針の4番の(2)のところも、「国際教育」という言い方、多分以前課長が、以前の「国際理解教育」というのは、最近は「国際教育」という言い方に統一しているというのか、そういうニュアンスのお話をされた記憶があるんですが、このあたりはいかがですか。

指導課長 ご指摘のとおりでございまして、やはりこれからは「国際理解教育」、国際理解というのは理解をメインとしているところが、文言ができたころには、ありました。ただ、今は国際教育というのは、グローバル社会に飛び出していくときの、その子たちの資質的なものもしっかり育てるんだという意味合いがございまして、ここは平成26年度の予算の掲載事業名と同様に、「国際教育」でもいいのかなとは思いますが。

近藤委員長 そのほかはいかがですか。何かございますか。

古川委員 短く、せっかくなったところなんですけども、いじめの問題のところ、上から3番目で、大分あっさり、すっと読めると言えば読めるんですが、例えば修正前には、いろんな大人が「断固許さない強い姿勢を示し」なんて言葉が入っていたのが全て抜けて、修正後の内容で、そのものなんでしょうけれども、強さが、訴えかけが弱くなったような気がして、なら、「断固許さない」とか「強い姿勢」とかいう意味を含めて、「大人が」というところを「全ての大人が」とか、少し強調する言葉をつけると、もうちょっと周りのみんなでという雰囲気とか姿勢のニュアンスが出るかなと思いましたが。

近藤委員長 何かありますか。

指導課長 ご指摘を受けて、やはり左と右、修正前と修正後を比較しますと、インパクトが、ちょっとトーンが下がったなというのは、我々は、つくるときにはその意味合いを込めて、大人が力を合わせてというふうに表示してしまうんですけども、やはりこれだけを見る方は、今まであった強さというのを、それは余り感じないんだろうなと、今ご指摘を受けて思っていたのです。なので、少し文言を工夫させていただいて、今すぐ代案という形で出ないんですけども、「全て」だとか、あるいは「断固許さない」だとかいうような言葉を入れながら、少し修正してみたいと思います。

近藤委員長 ご検討願いたいと思います。

ほかはよろしいですか。

どうぞ。

教育長 これまでの千代田区の現状も踏まえつつ、市川委員から学力についてのご心配をいただいています。最近は国が率先して、例えば英語教育についても、小学校3年生から前倒しでやるだとか、情報教育を、全国で平成32年度には1人1台のパソコンでやっていくだとか、全国レベルで、教育の強化に向けての動きが上から来ている状況の中で、千代田も先んじるとか、工夫をするとかの対応をしていく必要性をすごく感じております。

今、委員からお話がいったように、教える側の資質が大事だとなご指摘は

非常に参考になるご意見だと受けとめまして、今後、教員の資質の向上とか、支援とか、その辺については、私も事務局の職員と少し意見交換等もしながら、何らかの形での強化を考えていければと思っています。

近藤委員長 ありがとうございます。

どうぞ。

市川委員 今、教育長さんからそういう話があったので、さっきから一言言いたいなと思ってたんですけども、教育長を中心として、この教育委員会対策じゃないですけども、月にというか、週に何回くらい主要会議というのを開かれるんですか。

教育長 現在、全体で意思統一して、意見交換をする機会は2週間に一遍です。全体の幹部職員が集まって。

市川委員 それは教育委員会の事務局だけですか。

教育長 教育委員会の事務局だけですね。あと、案件によってはもう、しょっちゅういろんな打ち合わせは……

市川委員 それは当然ですね。

教育長 当然やりますけども。

市川委員 別にそれに対して助言を求められているわけでもないのに、言うこともないんでしょけれども、もうちょっと事務局で、いろんなテーマについて議論する必要があるんじゃないでしょうか。それは、教育長さんが、少なくとも事務方のトップなんですから、だから、その教育長さんに資料の説明やら解説をお願いするというのはいかななものかと思うんですよ。そういう意味も込めて、マニュアルでいろんな教育なんかできませんよと、こういうふうに申し上げたつもりではあったんですけども、やっぱり2週間に一遍というのは、いかにも少ないですよ。もうちょっと、誰が何を聞かれても——誰が何を聞かれてもというのは、主として議員さんなり、住民の方を頭に置いた発言なんですけれども、事務局で、そういうチャンスを増やしていただきたい。

別に非難するわけじゃないですけども、先ほどノロの説明がありましたよね。ノロウイルス、これなんかもかなり前にいろんなことが話題になっていて、それで、今のノロというのはアルコールじゃ死なないとか、本当かうそか知りませんが、そういう話も普通、当たり前テレビを見ている人なら誰でも知っているわけですよ。そういうことが学校の現場にちゃんと伝わったり、あるいはそういうことが教育委員会の事務局で議論になっているのかどうなのか、給食をやっているわけですからね。学校給食会がやっていますだなんて話じゃなくて、そういうことが起こったときにどうするのか、起こり得るわけですから、いつでもね。その辺のところをもうちょっと、教育長さんが忙しくてだめだというなら、ぜひ、子ども・教育部長にお願いしたいと思うんですよ。もう少し事務局で、いかにも2週に1回というのは少な過ぎると思うんだな。それだけ無事平穏でいいといやいいんでしょけどもね。

これも、大変申しわけないんですが、ご意見として、聞かれもしないのに申し入れておきたいということです。

近藤委員長

ほかはいかがでしょうか。よろしいですか。

(なし)

近藤委員長

それでは、特にないようですので、本日の日程は全て終了しました。定例会を閉会いたします。ありがとうございました。